

## 卷 頭 言



## 次代を担う子供たちの育成

(財)日本サッカー協会 キャプテン

川 淵 三 郎

Saburo KAWABUCHI

子供たちの運動不足、身体機能の低下が叫ばれるようになって久しい。また、不登校や引きこもりといった社会からの逃避、いじめや学校内暴力、犯罪の低年齢化なども深刻な社会問題となっている。

私たちの少年時代の生活の中には近所づきあいや地域交流の場があり、地域ぐるみで子供を育ててきた。広場や空き地も多くあり、子供たちは遊びやスポーツを通じて健康な体をつくり、生きるために必要な社会性を身につけてきた。現代社会が抱える問題をみると、子供たちが外で遊んだりスポーツをしたりする場所や機会を増やすことが、この状況を改善する大きな力になると思えてならない。

現在、日本サッカー協会は、幼児から小学校低年代の子供たちを対象に、体を動かすことやスポーツの楽しさを経験させるため、「JFA キッズプログラム」を策定し、各都道府県サッカー協会を中心に取り組んでいる。

成長期の子供にとって、仲間とともに遊んだりスポーツをしたりすることは、たくましい体をつくるだけでなく、生活習慣や情緒の乱れを改善するにも、また知能の発達や情操教育の面でも重要なことだ。我々は、色々な運動や競技を取り込みながら、その年代に合った指導マニュアルをつくって、スポーツの普及・振興を図っている。

一方、将来の日本サッカーを担うトップアスリートを育てることも日本サッカー協会としては重要な課題だ。「エリート養成」と聞いて拒絶反応を示す人も少なくないが、これはキッズプログラム同様、その成長期に合った体力づくりを行いながらサッカー選手として有望な子供を選出して専門的な指導を施すものだ。もちろん、上になるにつれ選手数も絞られてくるのだが、社会性や一般教養、語学力などを身につけられる教育も行い、仮にふるいにかけても、また、サッカーを離れたとしても、実社会できちんと生きていける人間を育てていく。

ヨーロッパなどのスポーツ先進国を見ると、それぞれの街には人口に見合った規模のスポーツクラブがある。そこには、それぞれの年代や目的に合った指導ができるコーチがいて、子供から高齢者まで、誰もが気軽にスポーツを楽しみ、地域の憩いの場として世代を超えた交流を育んでもいる。世界に名だたる選手を多く送り出しているのもそういった環境があるからこそ。我々は、サッカーやスポーツの発展のためだけでなく、日本の未来のためにも、子供たちが健全に育つための環境づくりを進めていく考えだ。

## 略歴

川 淵 三 郎 (Kawabuchi, Saburo)

1936年生まれ。大阪府高石市出身。(財)日本サッカー協会キャプテン。早稲田大学在学中に日本代表となり、東京オリンピックなどに出場。引退後は古河電工サッカー部、日本代表チームの監督を務める。1988年に日本サッカーリーグ (JSL) の総務主事として、Jリーグの立ち上げに尽力。1991年、(社)日本プロサッカーリーグ初代チェアマンに就任。2002年7月より現職。